

西条ロータリークラブ 週報



インスピレーションになろう

週報 2019年6月13日 6月第2例会

例会日 木曜日 グランラセーレ東広島

事務局 東広島商工会議所会館3階

会長 山田 謙慈 幹事 奥本 哲之



本日の例会 第2672回

- 12:30 点鐘 (山田会長)
ロータリーソング「それでこそロータリー」
お客様の紹介 (廣幡副会長)
会長時間 (山田会長)
お祝い時間
☆結婚記念日
金好会員 (昭和57年6月20日)
小松会員 (昭和60年6月5日)
佐々木伸治会員 (昭和62年6月14日)
和田会員 (昭和49年6月22日) 45年
☆入会記念日
藤原会員 (平成23年6月2日)
☆会社創立記念日
岡田会員 (明治38年6月1日) 株岡田商店
岩井会員 (昭和26年6月1日) 株岩井事務機
山田会員 (平成10年6月1日) 医療法人 瑠璃光会
☆100%出席
藤原会員 (6月2日) 8年
三木会員 (6月2日) 4年
- 12:40 会食時間
出席報告・スマイルボックス発表
委員会報告
幹事報告
- 13:00 点鐘 (山田会長)
クラブ協議会 (Club Assemblies)

《幹事報告》

- ★例会終了後、理事会を開催します。
- ★次回6月20日(木)の例会は夜間最終例会です。18:30～、佛蘭西屋にて開催します。
- ★6月27日(木)の例会は休会です。

《クラブ協議会 (Club Assemblies) とは》

クラブ協議会は、クラブのプログラムと活動もしくは会員教育について協議するために開かれる、クラブ役員、理事、委員会委員長を含むクラブ会員全員の会合である。すべてのクラブ会員は、協議会に出席することが強く奨励されている。クラブ会長、もしくは指定された他の役員が、クラブ協議会の議長を務める。

お知らせ

★今後の例会スケジュール

- 6月13日(木曜日) 1年を振り返って(クラブ協議会) 各理事・委員長
- 6月20日(木曜日) 最終夜間例会
- 6月27日(木曜日) 例会休み(年間指定休会)



皆さんこんにちは、ご健勝のことお喜び申し上げます。

まずは、5月25日の55周年記念式典、祝賀会ならびに前後の関連行事を無事滞りなく終えることができました。小早川実行委員長をはじめとする実行委員会、会員の皆様がたのおかげと心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

いよいよ6月となりロータリーでは最終の月になりました。長いながい1年でした。最近こんなに1年を長く感じたことは全くなかったことで楽しくもあり勉強もさせていただきました。これについては来週から2週にわたって総括をさせていただきます。

さて、今日は「ひきこもり」について少しお話しさせていただきます。ひきこもりとは、家族以外との人間関係がなく、社会参加をしていない状態を指します。必ずしも家に閉じこもっているわけではなく、外出をするような人でも家族以外と親密な対人関係がない状態はひきこもりに含まれます。ひきこもりになってしまうと、社会的な適応度が著しく低下します。さらに、長期化するとともに、精神症状や二次的な問題行動を引き起こしてしまう可能性があります。今回の連続して起こった事件も、これに当てはまるように思われます。ただ、ひとくくりにひきこもりという、これを支援する団体などからは一斉に反発されることとなります。確かに全てのひきこもりの人が問題行動を起こすわけではありませんが、起こりうる危険は可能ならば回避する必要があります。それではその目安はなんなのでしょう。最低レベルの基準は、一番親しいはずの家族が本人と意思疎通を図ることができるかどうか、でしょう。その次の段階は、外部からの支援を受け入れる、あるいは改善に向かう意思を持っているか否か、です。治療を受け入れることができる、集団適応支援に入ることが可能である、このレベルではその方向に向かうことができます。このような簡単な重症度分類が危険回避に重要と考えますが、今までの報道の中では個人情報さらけ出すばかりで問題解決には向かっていません。

今回のひきこもりの2例は、いずれもこの分類の中で最も重症のグループに入ります。しかし、単なる引きこもりではなくて統合失調症、自閉症が絡んでいることもあり注意を要します。元農林水産事務次官の熊沢英明容疑者は事件前に、妻に対し長男への殺意をほのめかし、次に暴力を振るわれたら危害を加える趣旨の話をしていたことが明らかとなっています。この熊沢容疑者は事務次官当時、BSE発生の責任を取って1年で引責辞任したように、責任感の強いタイプだったようです。

他者への相談などは念頭になく自分一人で事態の解決を図ろうと思いつめたことのように思え、大変残念なことでした。そのような見方で事件を再度見直していただければ幸いです。ありがとうございました。





「日本の建築」

高原 良彦 会員

（プログラム委員会委員長・(株)坂田工務店 代表取締役社長）

皆さんこんにちは。プログラム委員長の高原良彦です。どうぞよろしくお願いいたします。職業は建築設計施工をする工務店の社長です。社員の建築大工職人と一緒に、広島中央部を中心に、住宅の家造りや社寺（お宮やお寺など）の建築を行い、皆様の家守りとして活動して来ました。住みやすさに重きを置いた、風景に馴染む家造りにも取り組んでいます。テーマは「土地の風土に寄り添った自然素材の住みよい家」です。私は、いつも「終の住処としてより住みよい家をお客様に提案したい」と思っています。現在では、自社が擁する大工の高い技術により、自然素材を用いながらも生活動線が配慮された、風土に溶け込む住み良い家を作り出すことを心がけております。本日お手元に、弊社のパンフレットをお配りいたしますので、ご参考にさせていただきたいと思っております。

さて本日は、日本建築についてお話をさせていただきます。

1. 日本の建物の特徴について

日本の住宅は、玄関で靴を脱ぎます。アメリカもヨーロッパも中国も台湾も、住宅では土足で玄関からリビング、食堂、寝室まで土足で過ごすことが多いと思います。靴を脱ぐこと、上足と下足または素足で歩くことを上下足分離といいます。この言葉には、日本の建築空間の大きな意味があります。日本の住宅においては、玄関や土間以外では、土足で過ごす習慣はありません。

■床＝板床、畳床と大地の延長＝土間には大きな違いがあります

平安時代になって、板床の上におく敷物として畳が現れました。そしてその内に、畳は敷き詰められるようになり、畳床和室が誕生しました。

■板床での生活 洋間を生活に取り入れる

明治時代になって西洋式の生活は板床の上での椅子座の生活が入りました。

外国では本来は下足（土足）での生活でしたが土間だけは取り入れることができませんでした。

■西洋建築と日本の建築における空間の捉え方の違い

西洋の建築は組石造です。石を積み上げてつくる壁とドアがあります。日本の建築は、高床式の木造です。大地から浮いた床があります。床の上には薄い膜としての壁をつくる壁と間戸（まど）（戸・ふすま）があります。

○日本の気候（四季）の特徴があります

日本には季節（春夏秋冬）があります。また24節と、小寒・大寒・節分・春分・夏至・秋分・冬至などがあります。東広島の年間降雨量と平均気温について

○季節の差が生む1年の暮らし。季節をさすがしく生活する。

「建具替え」とは季節の変わり目に行う京町家での「住まいの衣替え」のことです。町家では6月に建具を夏仕様に替え、9月頃に冬のしつらいに戻します。

○高温多湿の気候による暮らし。光と影をうまく使った暮らし。障子・御簾戸の活躍。

室内は冬の方が明るいです。和紙美濃紙を張った障子は光を取り込んで反射し部屋を明るくしますが、夏仕様に建具替えを



した途端に室内は暗くなります。「木陰にいるようです」。夏のしつらいは日差しを遮り、代わりに風を通します。さらに坪庭と座敷庭の二つの庭が涼しい空気を運びます。

2. 日本の伝統工法について西岡棟梁の話

法隆寺は世界最古の木造です。この言葉には、日本の建築空間の大きな意味があります。日本の気候は高温多湿です。世界の多くの国々でも最古の建築は木造でありましたが、石造とレンガ造が主流となりました。しかし日本では、良質の木材が無尽蔵にあったから日本の建築には、木造が多いと思われまゝです。宮大工の西岡常一（にしおかつねかず）氏は1908生まれ-1995没、奈良県生まれ。法隆寺金堂、薬師寺金堂、西塔などの復興を果たした最後の宮大工といわれています。

■宮大工の西岡常一の口伝 内容（「木のいのち 木のこころ 天」 著者西岡常一）

・「神仏をあがめずして社頭伽藍（しゃとうがらん）を口にすべからず」

神の道知らぬものは神社建築を口にすな。また、仏の道知らぬものは堂塔伽藍を口にすな。金のためだけに仕事をしてはならぬ。大工のわがままや、自分の儲けで造るなということです。寺は仏様の住むところだから仏様の心組みを忘れるなということです。

・「伽藍造営には四神相應（ししんそうおう）の地を選べ」

西岡氏は、「四神というのは、中国から伝わった四つの方位の神であり、東は青竜、南は朱雀、西は白虎、北は玄武のことで、伽藍を造営するなら方位に適した場所を選べと伝えられています。これを地形でいうと、東の青竜には、清流がなければならぬ、南の朱雀には、伽藍より一段低く沼や沢でなければならぬ、西の白虎には白道が走ってなければならぬ、北の玄武には、山丘が伽藍の背景になってなければならぬということになります。

この口伝を法隆寺に当てはめると、東方、青竜には富雄川があり、南方、朱雀には伽藍より一段低いところに大和川があり、西の白虎には西大門の西側に大和川に達する道があり、北方の玄武には、矢田山脈があります。こうした地相の良さが1300年前の伽藍を残すことができた理由かも知れません。薬師寺の場合はどうかと言うと、東には秋篠川があり、南は一段低くなっており、平城京西の二坊が貫通しているものの、北には玄武に相当する山がなく、欠相しています。このためではないかも知れませんが、法隆寺が創建当時（原文通り）の七伽藍全部を残しているのに、薬師寺で残っているのは東塔だけです。東大寺は西が低くて東に山があります。だからもう残っていません。

・「木は生育の方位のままに使へ」

木は山で育った同じ方位で組む必要がある。「山ごと買った木をどう生かすか、その山の南に生えていた木を、堂塔を建てる時に南側に使い、北の木は北に使い、西の木は西に、東の木は東に使えということです。法隆寺の飛鳥建築でも薬師寺の白鳳建築でも口伝通り、堂塔の南正面には節の多い南の木、北側には節の少ない木が使われています。こうした知恵が1300年の命を持たせているようです。

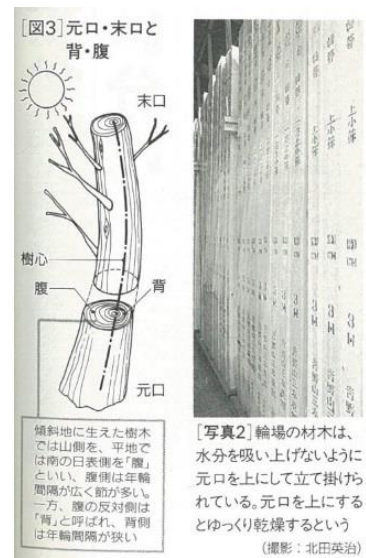
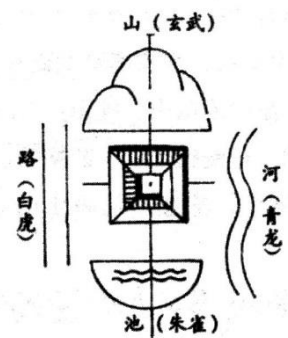
・「堂塔の木組は寸法で組まず木の癖で組め」

木は育った場所によって、それぞれ癖を持っているから、それを見抜き、生かして組む。

・「木の癖組みは工人たちの心組み」

棟梁というものは何かいいましたら、「棟梁は木の癖を見抜いて、それを適材適所に使う」ことやね。建築は大勢の人間が寄らんとできんわな。そのためにも「木を組むには人の心を組め」というのが、まず棟梁の役割ですな。職人が50人おったら50人が、私と同じ気持ちになってもらわんと建物はできません。

西岡常一は自然や心を大切にします。「木を生かすには、自然を生かさねばならず、自然を生かすには、自然の中で生きようとする人間の心がなくてはならない。」 「法隆寺を通じ

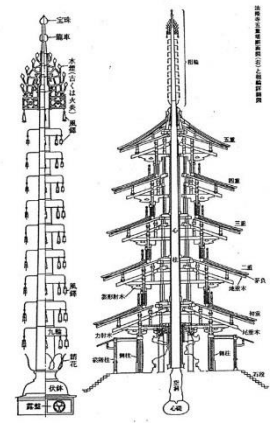


て、技法よりなにより、そうした心による建立、つまりは『入魂』を教えられたからこそ、私は堂塔の建立ができた」ということです。

法隆寺

法隆寺の五重の塔の柱は1本中央に心の御柱という柱があります。

塔はストウパともいわれ、釈尊の遺骨を奉安するためのものであり、仏教寺院において最も重要な建物とされています。基壇上より高さは約31.5メートルで、わが国最古の五重塔として知られています。五重塔の建築技術が、仏教とともに中国から日本にもたらされたのは670年のことでしたが、大陸では、仏塔というのは伝統的に石で作るものでした。石造りというの



のは、日本の地震の起こりやすさや年間雨量の多さを考えると、単純に言って維持が難しい。法隆寺の五重塔は、上に行くほど細くなっていく構造のため、耐力垂直梁柱で繋げている部分は一つもないのです。心柱は各層を支えるような役割はしていません。要は、各階が強固に繋がっているわけではなく、ただ単純に重ねたところを取り付け具でゆるく留めているのみなのです。心柱は各層の柱や梁から独立して立っています。各層はそれぞれ下の層の上に載っていて、地震や台風で揺れても各層がそれぞれ別々に揺れて、地震の揺れを吸収してしまいます。木組みで生まれる遊びと各層が独立しているという遊び、さらに心柱が合わさって、すばらしい耐震性を発揮しています。

3. 日本の伝統工法の構造について

- 屋根(やね) 屋根は、主に建物の上部を覆う構造物である。日本では、屋根を瓦、銅板、桧皮などその特性を生かして、構成されています。
- 瓦葺き(かわらふき) 日本の瓦には島根県の石州瓦、愛知県の三州瓦、兵庫県の淡路瓦などがあります。東広島では雨や雪などから建物を守るために、粘土を約1200度以上の高温で焼いた石州瓦の赤瓦で覆われています。石州瓦は、凍害に強い釉薬瓦(来待釉薬を塗って焼いた瓦)であり、特に、寒冷地(雪の多い地方)に使われています。特に棟の鬼瓦、シャチなどの役物は東広島には独特の派手なデザインがあり、石州瓦(赤瓦)の風景はとてもめずらしいものです。
- 銅板葺き(どうばんふき)【参考写真 弊社雷八幡神社本殿写真】銅板葺は、銅を薄くした板で葺いた屋根の総称です。銅板葺は、一尺二寸、長さ四尺の定尺の銅板を何等分かに裁断して使います。
- 桧皮葺き(ひわだぶき) 檜(ひのき)の樹皮を重ねて葺いた屋根です。桧皮葺は、垂木(たるき)の上に棧を打ち、その棧に檜皮を少しずつずらしながら重ねて竹釘(たけくぎ)で止めてゆき、軒先は檜皮の断面を鉾(ちょうな)で平らに仕上げます。出雲大社の屋根は、60年に一度檜皮葺の屋根を全部新調して葺き替えています。



4. 厳島神社について

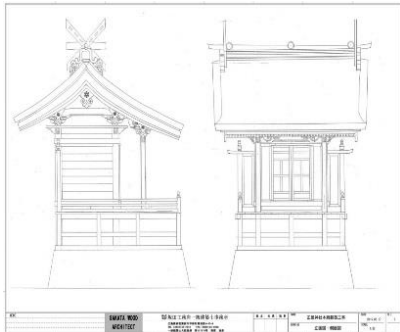
- 厳島神社の主要な社殿は、建築史家の広島大学三浦正幸教授は、厳島神社の本殿内陣は清盛の時代以来850年間、一度も水没したことがないとしたうえで、当神社の主要社殿は200年に一度の高潮にも水没しない位置を選んで建てられているとしている。また、当神社の社殿が海域に建っているにもかかわらず、柱の不同沈下を起こさないのは、社殿の建つ位置がもともと陸地であったところを掘削して海としたためであり、

社殿は大きな岩盤の上に建っているのではないかとのことです。この度、1875年に再建された大鳥居の保存修理工事をします。鳥居の支柱はクスノキで高さ16.6mです。支柱や袖柱や貫は矧ぐ木（はぐき）や埋木（うめき）補修することです。鳥居支柱は海においてあるだけで、屋根の箱に石を詰めて重くしています。台風、大潮などのときは浮くこともあるそうです。

5. 伝統建築の施工例

弊社の実際の施工物件を参考にお話させていただきます。

神社本殿新築工事の説明をします。このたび東広島市西条町土与丸の正徳神社本殿新築工事を施工させていただきました。「正徳」とは平成や昭和と同じ江戸時代の元号で、1711年に初代本殿が建築されました。その後、明治時代に建てられた既存の本殿を解体し、元の姿に新築したものです。1. 解体前 既存のご神体を仮社殿に移動します。2. 基壇 基礎石積み 3. 本殿建て方 木工事 4. 屋根工事 5. 完成となりました。



以上いくつかのお仕事を通して、数々のお客様や神社総代や門徒総代の皆様にご満足いただき、大変喜んでいただきました。それぞれの建築にたずさわられたご縁に感謝しております。

また、住宅の建築においては、広島県住まいづくりコンテストに3年連続で入賞しました。

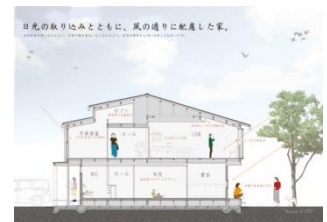
目に見えない住まいの「豊かさ」や「温もり」は、どうすれば実現できるか？それは素材をしっかりと見極め、その素材を生かす大工職人や様々な職種の職人さんの手にかかっています。日本の建築は、電動工具

や大型機械のない時代から、手仕事を通して連綿とつながっています。繊細な手仕事を仕上げるには、緊張して集中して心をこめて造ることが大切です。インスタントで早く安く作ることと、手間暇かけて、丹精こめて造ることとは後から違いが出てきます。お客様からは「これは高いじゃないか」と言われることがありますが、何年も経たないうちに、維持管理に多大な費用がかかったりすることもありますし、「意外と風土気候にあっているのが長持ちするなあ」と言われることもあります。また高効率や単価や性能だけでは言い表せないこともあります。それは、粋であるとか、渋みがあるか、色艶が良いとかということです。

建築にはつまり、当たり前のことができるかどうかにかかっています。それは、太陽は東から登り、西に沈むということと、その風土と敷地の状況によって良く吹く風の方向があり、冬には雪が多い、零下何度の最低気温が毎日続くなどがあります。その当たり前の風土に対して建築が行われ、風土に寄り添った独特の景観が形成されて今日まで続いています。

以上日本の建築のすごさを伝えるには、十分な内容を良くお伝え出来なくて申し訳ありませんでした。少しでも日本の建築について木を生かした建築を造っているのが分かっていただけでしょか？

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げまして、私の卓話とさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。



★本人誕生日

- ・菅生会員 (昭和46年6月5日)

★お客様の紹介

- ・金谷 俊宗 さま (広島RC)
- ・鶴野 政人 さま (広島東RC)
- ・岡 順一 さま (広島東RC)
- ・西条RC奨学生 金燕 さん



菅生会員(左)



金燕さん

スマイル・ボックス (Smile Box) 6月6日例会出宝分

本例会:59,000円
(今年度累計金額963,000円)

★山田会員:5月に初孫が誕生しました。3400gで母子ともに元気でやっています。

★山田会員:創立55周年記念式典お疲れさま。無事に終わりまして、お礼を申し上げます。

★廣幡会員:北海道の友人が、国際ロータリー第2510地区のガバナーに就任するので、激励の食事会に行きますと、北広島ロータリークラブの橘(たちばな)会長とお会いし、7月13日(土)と14日(日)に開催される、『北の酒まつり』のご案内を頂きました。北海道観光を兼ねて、行ってみたい下さい。

スマイル・ボックスって、何???

例会場で会員が自由意思で善意の寄付金を入れる箱(ボックス)。

会員、家族、事業場等の慶び事、お祝い事をスマイルしながら披露し、喜びを分かち合い、又失敗したり、迷惑をかけた時もユーモアたっぷりに苦笑し、例会を賑わせて親睦を増進します。

集まったお金は、西条ロータリークラブ奨学金として使われます。



北広島RC 橘会長(左)

スマイル・ボックスへの出宝、
宜しくお願いします。

出席報告（6月6日例会）

例会出席は正会員の最も基本的な責務で、会員がお互いに胸襟を開いて親交を深め、奉仕を語り合う機会です。会員は、クラブで定めた前半・後半の6ヶ月間に、自己の所属クラブでは、それぞれ30%以上出席し、且つ、年間通算の出席率は出席補填を含めて50%以上であることが必要です。また、例会は概ね1時間ですが、少なくともその60%は会場に止まる義務があります。

◆会員数 38名 ◆出席者 28名
◆来訪者 4名 ◆欠席者 8名
◆免除者 2名
◆5月23日の欠席者 8名
◆メイクアップ 8名
★出席率 100%
★通算出席率 99.72%

出席の補填（メイクアップ）

クラブの例会に出席できなかった場合には、例会前後の14日以内に他のロータリークラブの例会に出席すること。出席補填は、訪問先での出席証明を受け取り、自クラブに郵送または直接幹事に提出または申告することで完了します。

ロータリー特別月間 Special Month in Rotary

クラブだけでなく、ロータリアン一人ひとりが、ロータリーの活動に参加するよう強調するため、国際ロータリー(Rotary International)理事会が指定した月間のことです。

2015-16年度より、新たに理事会は奉仕の重要性を認識し、ロータリーの6つの重点分野の月間が取り入れられた。

6月：ロータリー親睦活動月間 (Rotary Fellowships Month)

クラブと地区は、特にロータリー親睦活動月間である6月中に、親睦活動を推進するよう奨励されている。

親睦活動グループは、活動内容やロータリー一般について関心を高めるため親睦活動の日を設けたり、会員に情報を伝え、活動を推進するためのウェブサイト運営するよう奨励されている。(ロータリー章典 42.020.9)

光州RCから
ご惠贈された壺



西条ロータリークラブ

創立 1964年5月11日 例会日 毎週木曜日 12時30分～13時30分

事務局 東広島商工会議所会館3F 東広島市西条中央7-23-35

TEL(082)420-0320 FAX(082)420-0319

西条RC公式ウェブサイト <http://www.saijo-rc.jp> メール saijorc@eagle.ocn.ne.jp

会長 山田 謙慈 副会長 廣幡 勝祐 幹事 奥本 哲之 副幹事 菅生 一郎